
思い

藤堂遙惟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い

【Zコード】

N8796C

【作者名】

藤堂遙惟

【あらすじ】

話の設定はM A R です。ウンエッダーとフェイクA R M使いたちを倒したアルヴィスを中心に6年前のファンタムの思いをアルヴィスに言いたかったことです。

すべてが終わった日

アルヴィスはベルと一緒にクロスガードの本部があるレスター・ヴァ城にいました。

ここ数日、アルヴィスはることに悩まされていました。それは、夢にファンтомが出てくることです。

夢に出てくるファンтомはいつも悲しそうな表情（顔）で、アルヴィスに何か言つていました。

しかし、アルヴィスには何を言つているのか分かりませんでした。「ファンтом、何を言つているんだ・・・」

いつもそんな感じで目が覚めました。

（ファンтом、お前は俺に何を伝えたいんだ・・・）

ベルが心配そうにアルヴィスに近づきました。

「アルワー大丈夫？」

「大丈夫だ・・・ベル」

何事も無かつたようにしていても、スノウとアランは気づいていました。

「大丈夫か、アルヴィス・・・」

「大丈夫です・・・アランさん」

「ならないがな・・・」

「何ですか？」

「スノウが気にしてんだよ」

「そうですか・・・」

「なんかあるなら相談しろよ

「はい！それとアランさん」

「何だ」

「口ランのところへ行つて来ていでですか？」

「口ランなら分かることでもあるのか？」

はい

「分かつた……行ってこい」

「ありがとう」「それこそや」

「アルヴィスは急いで、ロランのところへ行きました。

「アーティスト」

な何ですか。アリススミス

「お前に相談がある」

珍しいですね

お前から分かること思ってない

口ラジに促され、
イスに座りました。

口ランはアルヴィスの前に座りました。

「……故郷、俺の夢——ファノ——アボ出——る

アルヴィスはそのときのアントムの様子をじつかり言いました。

すべてを聞いたロランは、

「ううん、トムがその様な様子でしたか？」

「アルヴィスさん、最近、ファンタムのお墓に行きましたか？」

「1年ぐらい前か半年前だ・・それがどうした・・・」

「シンドムはあなたは会いに来てほしいんだと思います。」

「！？」

「ゾンビタトウを付けたときから、仲間にしたいと思つた理由が分

の母たまごへくるのが……ありがとう……日本

「ファンタムなら、僕が言った事を思つていいと思います・・・」

「俺はこれから・・・ファンタムのところへ行く・・・」

「喜びますよ・・・ファントムが・・・」

「ああ・・・」

ファントムの墓へ行く途中、一輪の花を取つていきました。

ファントムの墓には既に花束が置いてありました。

それは、キャンディスのものでした。

アルヴィスは花束の横に花を置きました。

「・・・ファントム・・・お前の言いたいことがやつと分かった・・・
・口ランはお前の言いたいことを理解している・・・今まで来れなかつたのはウンエッダーが広めたフェイクARMの謎を追つていたからなんだ・・・今度こそやつと・・・ゆっくり出来る・・・お前にも会えるからな・・・」うして・・・次来るときはもつと早めに来る・・・じやあな・・・ファントム・・・」

アルヴィスはそれだけ言つて、レスター・ヴァ城へ帰りました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8796c/>

思い

2010年10月10日23時52分発行